

ISO 9606-1 に基づく溶接技能者 評価試験開始の件

一般社団法人日本溶接協会

当協会では、ISO 9606-1 規格「溶接技能者の技量承認試験－融接－第 1 部：鋼」に基づく溶接技能者認証制度を確立し、この度、平成 28 年 2 月 26 日に初めての評価試験を実施いたしました。

今回の評価試験は、大阪府貝塚市の試験会場において関西地区溶接技術検定委員会が担当しました。当日は炭素鋼およびステンレス鋼の 2 種類の試験材料における斜め 45 度固定管のティグ溶接の受験種目を実施し、現在、試験材の外観試験および放射線透過試験による判定評価を実施中です。

ISO 9606-1 規格は、欧州、米国や日本の考え方が考慮されたグローバルな規格として 2012 年に改正されました。当協会は、ISO 9606-1 規格の制定委員会である ISO TC44/SC11 会議に日本代表メンバーとして参画し、日本の意見を反映させるなど成果をあげてきました。

今回、運用を開始した認証制度は、試験材料の形状と寸法、溶接方法、溶加材の種類、溶接姿勢および裏当て金などの多種にわたる項目から標準的な組合せを 108 種の標準溶接施工要領書（pWPS）として設定した認証制度としています。これには長年にわたり実績のある当協会の溶接技能者認証制度の仕組みをベースとしており、ISO 9606-1 を必要とする事業者が迅速に必要な資格を取得できる制度としました。ただし、JIS に基づく技能認証資格とは、評価試験内容に違いがあるため、ISO 技能認証と JIS 技能認証とは別の資格としています。詳細は当協会のホームページをご参照ください。

http://www.jwes.or.jp/mt/shi_ki/iso9606-1wo/archives/2015/11/iso_96061.html

今後、当協会では、今回運用を開始した認証制度に加えて、ISO 3834 に基づいた溶接管理体制を整えた事業者が個別の溶接施工要領書（WPS）による技能者の認証を取得する際にも対応できるよう、さらに認証制度の拡充に取り組む計画としています。

以上